

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.94
2021.1

“カラ仲間”は元気かなあ…

森のオールラウンダー

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

厳冬の森でも活動している“ゴジュウカラ”

厳冬らしくマイナス10度を下回る日が続いたある日、静かな森の中でゴジュウカラに出会いました。深く積もった雪に、歩いている音そのまま吸い込まれそうな静けさの中、遠くからかすかに「ピョッピョッ…」と声が聞こえてきました。声の方向に目を向けると木の幹に巻きつくツルアジサイに止まるゴジュウカラの姿。さり気ない立ち姿に見えても垂直に止まれる脚力には驚くばかりです。ましてや逆さまになって幹を下りられるのは日本で唯一無二。遠目で何の種類かわからなくても、幹を下った時点で「あ、ゴジュウカラだ」とすぐにわかるありがたい存在でもあります。一年を通して森に棲み決して珍しくはありませんが、無雪期の曇天時や暑さの中、肌寒くいきものの気配がほとんどしない晩秋の時でも「何かいる！」と目をやるとたいてい幹を螺旋状に上り下りしている姿が見られます。今回もより厳しい条件下での出現に「期待を裏切らないなあ」と、グリーンシーズンと変わらぬ機敏な動きを見て嬉しくなりました。“森の常連さん”になるには、どんな天候の中でも暮らしてゆける適応能力の高さが必要なのかもしれない…。見慣れていたはずのいきものが途端に特別な存在になった瞬間でした。

What is “Gojuukara”?

「幹を逆さまに下られる鳥」

ゴジュウカラ科

全長：約14cm

分布：北海道～九州

留鳥。低山から亜高山の落葉広葉樹林帯に生息する。木の幹を回りながら樹皮に隠れた虫などを食べる。また、種子なども蓄えておくこともある。それ程警戒心が強くなく姿を見せてくれることが多い。「フィフィ…」とよく通る声で囀る。

(参考図書：「日本の野鳥650」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

倒木を読む

第5話

冬木の森、立枯木が魅せる風情



一つ一つの音を聞いていない、思い切りゆっくりと指先を動かす楽器の最初の練習のように、一步一步に時間をかけ、たった一キロの道を二時間も三時間もかけて歩くつもりでいると、緑に乏しい冬の山みちも、語りかけて来るものが数限りなくあるものだ。

串田孫一

『霜柱』より



折れた木の割れ目をいかして野鳥が巣をかけていた。しっかりと空にいた森林ギャップは解放感を感じさせるとともに、その空間を埋めるべく成長を急ぐ若木の存在を予感させる。「マザーツリー」以外にも、ツルアジサイのドライフラワーが印象的な立枯木があり、「マダム・シャンテリア」という名前を付けてしまった。積雪期の立枯木は時に、生きた木よりも豊かな表情と懐の大きさを感じさせてくれる。

しぶとく地表に葉をのぞかせていたササもだいぶ雪に沈み、森の色彩はより限定され渋みを増す。スノーシューで森を散策すると、春夏秋冬とご無沙汰していた懐かしい立枯木との再会がある。それらは標識や看板のない森で、散策者の求め次第だが様々な情報をくれる。

たとえば、網張で一番太く大きなブナの「マザーツリー」は、散策者にとってよい目印であり休憩場所としても親しまれている。数年前までわずかに生きた枝もあったが、それも見当たらなくなってしまった。年々小さくなる枝ぶりとは裏腹に、ぼ



Q.雪と倒木のすき間を利用する生きものはいますか？

A.これまでにすき間から出てきたテンやウサギの足跡を見つけた事があります。風雪をしのぎ身を隠す目的で、または仮眠場所として利用したのかな。雪の下のササのトンネルを移動するアカネズミたちも、たまにこうしたすき間を出入りに使っているよ。すき間に残された植物の種子を探したのか、ヤマドリがのそき込んだ形跡もあったな。厳しい冬を過ごす生きものたちにとって、すき間は「ちょっと一息つける場所」なのかもしれないね。

森林の雑記帳



Amihari Birds

アミハリ・バード Vol. 37

ヒヨドリ

科名：ヒヨドリ科
全長：27.5cm
生態：留鳥または漂鳥
分布：日本全国

街中でも見られる身近な野鳥ですが驚くことに、真冬の網張でも時折見かけます。北海道に分布するヒヨドリは冬を越すために本州へ渡りをして各地へ分散するのだとか。もしかすると、夏に網張で繁殖していたヒヨドリは冬を前に暮らしやすい里へ下り、北海道からの流れ者の個体



がヤドリギの実等を目当てに滞在しているのでは？と想像力を刺激されます。世界的に見た分布域は、日本や台湾周辺に限られ意外とレアです。名前は「ヒョヒョ」という鳴き声に由来し、にぎやかさが災いしたのか漢表記は「鶉」。「卑しい鳥」はちょっと気の毒ですが実際食欲旺盛で、桜や椿などの花の蜜からコブシなどの花卉、植物の種子や葉、果実全般いける口です。繁殖期には昆虫やトカゲなどの動物食も難に与えるハンターに豹変。気が強く荒っぽいイメージがありますが、スズメのために出していたくす米を、一粒一粒箸でつまむようにくちばしで食べる繊細な一面もあります。平安の世では貴族が好んで飼ったという雅な経歴もあり、なんともあなどれない魅力をもった鳥です。

網張 岩手山

私のとっておきの1枚



網張温泉スキー場がクローズし、展望リフトが運行する前の春から初夏にかけてゲレンデはお花畑となる。キクザキイチゲの群生やオオバキスミレの絨毯、地味だがタケシマランの大群生。有名なのはシラネアオイの大株の群生だが、私が一番気に入っているのはサンカヨウの群生である。

サンカヨウは通常樹林下や谷間の湿ったところに生育する。しかしここでは遮るものの無い青空の下で大群生をなしている。陽の光をいっぱいを受けたたくさんの純白のサンカヨウ！このサンカヨウを見るために、私は毎年ゲレンデを登るのだ。

岩手植物の会会員 伊東 寿枝 氏

◆◆◆ 網張ビジターセンターリニューアルのお知らせ vol.1 ◆◆◆

盛岡管理官事務所アクティブレんジャーの工藤です。本紙面でのご挨拶は2016年以來となります。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

環境省では「国立公園満喫プロジェクト」の一環として、十和田八幡平国立公園網張ビジターセンターの展示リニューアル工事を行い、2020年12月より皆様にご利用いただいております。

火山としての岩手山の「恵み」、「利用」そして「畏怖」をキーワードにして既存展示の再構成を行い、岩手山の見所や成り立ちを紹介しています。

館内にはくつろぎのスペースが以前よりも増えました。今後ゆっくりと空間を楽しんでいただけるようなソファやテーブルも配置する予定です。お楽しみに！

なお、リニューアル後の館内の様子を今後6回に分けて皆様に少しずつお伝えする予定です。国立公園でお会いしましょう。



(管理棟のくつろぎスペース)

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

1月17日「この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク」



(写真提供：岩手山地区パークボランティア)

普段は入れないところも自由に歩けるのがスノーシューウォークの醍醐味。小学生1人を含む総勢26名が冬の森の観察をしながら探検ウォークを楽しみました。生憎動物に会うことはできませんでしたが、山頂では視界が晴れて雄大な岩手山を見ることができました。下りでは思い思いに誰の足跡もないところを選んで歩いたり、牧野では思いっきり走ったり雪原に倒れて空を見上げたり……。冬の鞍掛山麓を満喫しました。

◆ 雫石公民館主催 ◆ - 冬休み子ども企画 - 1月13日 あそぼう！まなぼう！しずくいし！ 「和かんじきで冬の森を散策！」



かんじきの履き方や歩き方を達人から教わり森の中へ。フカフカの雪の上をかんじきを履いて歩く感触を楽しみました。



ソリ滑りは大人気！「最後の1回だよ」を何度も繰り返しました。みんな大満足！

イグルーの中は暖かいよ！

(写真提供：雫石公民館)



インフォメーション

ビジターセンターの自然ふれあい行事は初めてのお方でもご参加いただけます♪
お気軽にお問い合わせください。

3月6日(土) 「雪の鎌倉森をめざす(冬山登山体験)」

9:00~14:30 網張ビジターセンター集合
定員：10名 ※定員に達したため募集締切
参加料：大人500円 小学生300円

1月9日(土)~3月28日(日) 毎週土・日(※行事日を除く) 「網張の森雪上ハイキング」 (スノーシューハイキング)

10:00~11:00 網張ビジターセンター集合
定員：各7名 参加料：一人300円 ※要事前予約

☆新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になる場合もございます。最新の開催情報を事前にご確認下さい。

◆◆◆ 現在開催中の企画展 ◆◆◆

網張ビジターセンターリニューアルオープン記念

- 中山大太郎 写真展 -

「岩手山の表情」 partⅦ & partⅧ

partⅦ 1月6日(水)~1月31日(日)

partⅧ 2月3日(水)~2月28日(日)

(※最終日の2月28日は16時まで)



◆◆◆ 中山大太郎氏プロフィール ◆◆◆

盛岡市在住 トレッキング・スキーツアーガイド
1938年生まれ 年間入山回数は100日を超す

モモンガのつぶやき

毎号、表紙のいきものを何にしよう？とカメラを持って森を探し歩きます。積雪期は特に難儀しますが、今回もギリギリまで定まらず紆余曲折の日々でした。同時期にセンサーカメラも森に設置し、なかなか会えないいきものが写っていることに期待。

センサーカメラには体は真っ白で尻尾の先だけが黒いオコジョの深雪を泳ぐように進む後ろ姿が写っていました。小さな体から溢れんばかりの力強さを感じました。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 1,104人 ◆ 12月 560人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 0.6℃ ◆ 12月 -6.9℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館